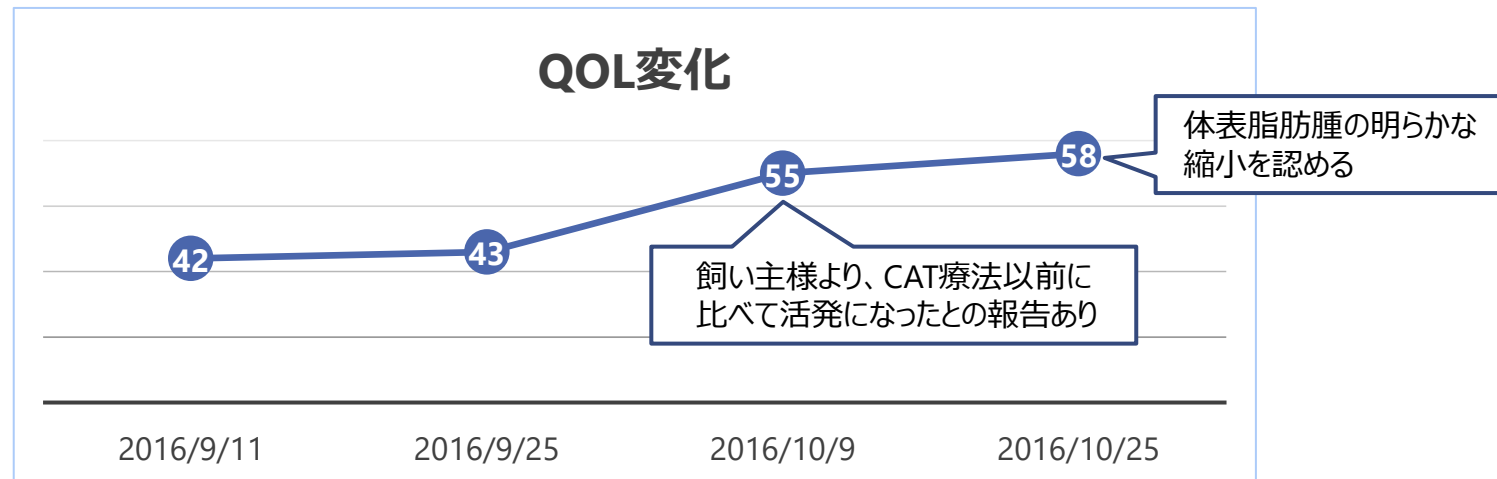


肝腫瘍（犬）

- ▶ バセンジー、14歳、♀
- ▶ 主訴：ふらつき、徘徊、食欲不振
- ▶ 臨床症状：食欲不振、起立時に揺れる
- ▶ 経過
 - ・ICG（インドシアニンググリーン）修飾リポソーム投与による光免疫誘導療法実施
⇒薬剤投与日：2016/8/25、光照射：2016/8/27～9/12で計9回
 - ・光免疫誘導療法実施後、CAT療法を実施
⇒肝腫瘍の進行を抑え、転移を予防する目的でCAT治療を実施
 - ・2016/9/11：CAT療法開始
 - ・計4回のCAT投与を実施：平均CAT投与量 27.6×10^7 cells
 - ・投与日：2016/9/11、9/25、10/9、10/25
 - ・2017/4/19（最終投与から176日後）：死亡

肝腫瘍（犬）



▶ 獣医師コメント

- ・初回培養時にリンパ球の増殖が良くなかったため、2回目以降は採血量を増やすことでリンパ球回収量を増やすことができた
- ・3回目投与時には飼い主さまよりQOLの向上が報告され、光免疫誘導法との併用効果も含めて効果を実感されたご様子だった
- ・CATの最終投与以降：2016年12月の段階では肝マスをやや縮小で維持されていたが、血液検査でALTの上昇(>2000)および心肥大が認められた⇒飼い主さまの意向で対症療法のみ実施
- ・2017年4月以降、腎不全の症状が急速に進行し死亡